

(3)全数把握対象感染症

ア ウイルス検査の概要

(ア) SFTSウイルス

各保健所の積極的疫学調査により 5 名の検査を実施したが、いずれの患者からも SFTSウイルスは検出されなかった。

(イ)ダニ媒介脳炎ウイルス

各保健所の積極的疫学調査により 1 名の検査を実施したが、患者からダニ媒介脳炎ウイルスは検出されなかった。

(ウ)ヘルペスウイルス

急性脳炎に係る保健所の積極的疫学調査により 1 名の検査を実施した。(検査項目：エンテロウイルス、アデノウイルス、A群ロタウイルス、ヘルペスウイルス、ムンプスウイルス) その結果、ヘルペスウイルス 7 のみ検出された。

(エ)麻疹ウイルス

各保健所の積極的疫学調査により 6 名の検査を実施したが、いずれの患者からも麻疹ウイルスは検出されなかった。

(オ)風しんウイルス

各保健所の積極的疫学調査により 2 名の検査を実施したが、いずれの患者からも風しんウイルスは検出されなかった。

イ リケッチア検査の概要

各保健所の積極的疫学調査により、13 件の日本紅斑熱の検査を実施し、6 件の日本紅斑熱リケッチア陽性を確認した。詳細は以下のとおりである(表 16 参照)。内、各保健所の積極的疫学調査により 1 件のツツガムシ検査も国立感染症研究所へ委託したが、抗体検査は陰性であった。

表 16 日本紅斑熱患者概要

番号	発生年月	性別	年齢	発生地	症状				治療等
					発熱	発疹	刺し口	肝機能異常	
1	2017年5月	女	80歳代	岩美郡	○	○	○	○	ミノサイクリン投与
2	2017年8月	女	80歳代	米子市	○	○	○	○	ミノマイシン投与
3	2017年8月	女	50歳代	鳥取市	○	○	○	○	ミノサイクリン投与
4	2017年9月	男	30歳代	米子市	○	○	○	○	抗菌薬、ステロイド投与
5	2017年9月	女	70歳代	県外	○	○	○	○	スルバシリン、ミノサイクリン投与
6	2017年10月	男	60歳代	岩美郡	○	○	○	○	ミノマイシン投与

ウ 細菌検査の概要

(ア)結核

VNTR 法による結核菌の型別試験を 1 事例、1 菌株について実施した。詳細は以下のとおり。

●事例 1

平成 25 年当時、初発患者に接触した 1 名が平成 29 年 7 月に肺結核と診断された。初発患者が VNTR 法による結核菌の型別試験を実施していたので、感染経路の探求のため、今回の被診断者について同試験を実施して比較した。2 菌株の繰り返し数が 12 領域中全てで一致し、同一由来株の可能性が高いと判断した（表 17 参照）。

表 17 結核菌 VNTR 法型別試験

事例No	検体番号	患者備考	検体の種類	反復配列数(JATA)											
				1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
事例1	1	接触者	菌株	1	4	9	3	9	1	2	4	4	7	7	2
	(一昨年検査)	初発患者	菌株	1	4	9	3	9	1	2	4	4	7	7	2

(イ)赤痢菌

平成 29 年には、県内で細菌性赤痢の患者が 2 名発生した。当所では患者（陰性化確認）と患者の接触者（県外発生分も含む）について 18 検体の検査を実施した。その結果、2 件のフレキシネル赤痢菌（*Shigella flexneri*）を分離・同定した。これらの血清型は、1 件は 2a、残り 1 件が 2b と異なっていた。

(ウ)パラチフス

県民 1 名から海外旅行先でパラチフスにり患し治療を受けたとの申し出があった。当所ではその患者の陰性化確認として、1 検体の検査を実施した。その結果、パラチフス菌は分離・同定されなかった。

(エ)腸管出血性大腸菌

平成 29 年には、県内で腸管出血性大腸菌患者（健康保菌者を含む）は 21 名発生した。当所では、患者（陰性化確認）と患者の接触者（結果陽性の場合の陰性化確認も含む）について 67 検体（便）の検査を実施した。その結果、10 件の腸管出血性大腸菌を分離・同定し、これらの血清型は、O26、O103、O111、O146、O157 であった。さらに、これら 10 株と他所で分離・同定された菌株 3 株について毒素遺伝子を検査したところ、「VT1・VT2」が 9 株、VT1 が 4 株検出された。詳細は以下のとおり（P44 表 18 参照）。

表 18 腸管出血性大腸菌症発生状況(平成 29年 1月～12月)

No.	検出月日	当所検査	居住地域	性別	年齢※	症状の有無	O血清型	Vero毒素型
1	1月25日	—	西部	女	50歳代	無	不明	不明
2	4月25日	分離・同定	東部	女	幼児	有	O 2 6	VT1
3	5月2日	—	西部	女	50歳代	無	不明	不明
4	6月7日	毒素型	中部	男	50歳代	有	O 1 5 7	VT1・VT2
5	6月10日	分離・同定	中部	女	40歳代	無	O 1 5 7	VT1・VT2
6	6月10日	分離・同定	中部	女	中学生	無	O 1 5 7	VT1・VT2
7	6月12日	分離・同定	中部	女	高校生	無	O 1 5 7	VT1・VT2
8	6月21日	毒素型	中部	男	中学生	有	O 1 5 7	VT1・VT2
9	6月24日	分離・同定	中部	女	60歳代	有	O 1 5 7	VT1・VT2
10	6月27日	—	西部	男	60歳代	有	O 1 5 7	VT1・VT2
11	7月3日	—	西部	女	80歳代	有	O 1 5 7	不明
12	7月13日	毒素型	中部	男	高校生	有	O 1 0 3	VT1
13	7月18日	分離・同定	西部	男	40歳代	無	O 1 4 6	VT1
14	7月18日	分離・同定	中部	男	50歳代	無	O 1 0 3	VT1
15	7月28日	—	西部	女	60歳代	有	O 1 5 7	不明
16	8月17日	—	西部	女	幼児	有	O 1 5 7	不明
17	11月6日	—	西部	女	幼児	有	O 1 1 1	VT1
18	11月10日	分離・同定	西部	女	30歳代	無	O 1 1 1	VT1・VT2
19	11月10日	分離・同定	西部	女	60歳代	無	O 1 1 1	VT1・VT2
20	11月11日	分離・同定	西部	女	幼児	無	O 1 1 1	VT1・VT2
21	12月27日	—	西部	女	30歳代	無	不明	VT1・VT2

※表中の着色部分はそれぞれ同一事例を示す。それ以外は個別事例

※乳児：1歳未満 / 幼児：1歳以上

(オ)レジオネラ菌

県内でレジオネラ症と診断された患者1名について喀痰の検査を行った。その結果、レジオネラ菌 (*Legionella pneumophila* (血清群1)) が分離・同定された。

(カ)侵襲性肺炎球菌感染症

各保健所の積極的疫学調査により4件の血清型検査を国立感染症研究所へ委託した。その結果、すべて非ワクチン株(13価肺炎球菌結合ワクチン)であった。

(キ)ライム病

各保健所の積極的疫学調査により1件のライム病検査を国立感染症研究所へ委託したが、*Borrelia*属遺伝子検査およびライム病抗体検査は陰性であった。